

スポーツの喜び体感

たかおかこども園がサッカー教室



白熱の試合を繰り広げる園児たち



一生懸命にボールを追い掛けた

富士市厚原のたかおかこども園(渡邊宏行園長)はこのほど、年長児と年中児を対象としたサッカー教室をエスパルスドリムフィールド富士(久沢)で開いた。清水エスパルスサッカースクールのコーチからサッカーの基本動作などを学び、男女別で試合を実施。園児たちは仲間とスポーツをする楽しさを体感した。

18日には年長児67人を対象に開催。教室は前転や鉄棒、ジャンプなどを組み合わせたサーキットトレーニングと、ボールの扱いに慣れるための運動からスタートした。

このうちボールの取り扱いを習得する運動では、ボールの上に片足を置き、ボールを動かさないようにしながらジャンプして左右の足を入れ替えたり、足で挟んだボールをジャンプとともに頭上に跳ね上げて手でキャッチしたりと、さまざまな運動を展開した。

ドリブルの練習では「ボールをわんちゃん、

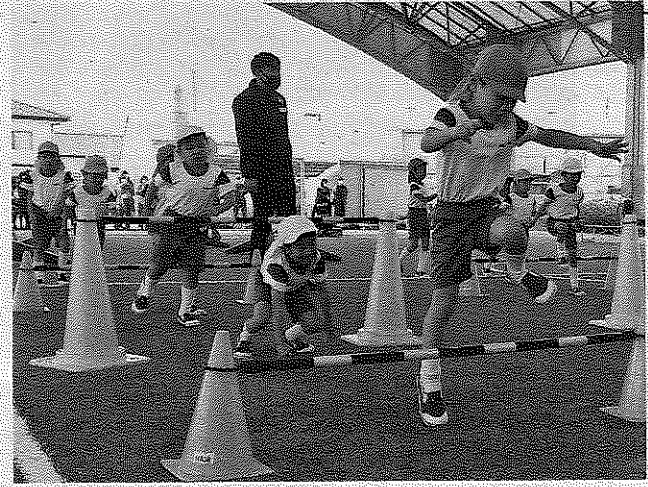


ゴールを目掛けて力強くシュート

自分の足をリードだと思ってお散歩させよう」とアドバイスを受け、足元でボールを動かす感覚を養った。

試合では同時に三つのボールがコートに入られ、子供たちは笑顔でボールを追い掛けた。シュートが決まる「やった!」「イエーイー!」などと歓声を上げて仲間と喜びを分かち合い、すぐに次の得点に向けて走り出した。

試合の前後には「お願いします!」とあいさつを交わしたり、試合を見守るチームの園児たちが一生懸命に声援を送ったりと、スポーツを楽しむ上でのマナーも学んだ。



サーキットトレーニングにも取り組んだ



足元を意識してドリブルを練習

エスパルスのコーチが指導

サッカー教室はエスパルスによる地域貢献事業の一環でもあり、同施設の開設当初から毎年行われている。渡邊園長は「教室での自身の成長や、試合での喜びや悔しさなど、さまざまなことを感じてもらい、日々の生活や新たな挑戦に生かしてほしい」と期待した。